

# 奈文研

## ニュース

No.59

Dec.2015

NABUNKEN NEWS



独立行政法人 国立文化財機構  
奈良文化財研究所  
〒630-8577奈良市佐紀町247番1  
<http://www.nabunken.go.jp>

### 「3D Bone Atlas Database」の公開

環境考古学研究室では、これまで松井章前埋蔵文化財センター長を中心に、遺跡から出土する動物骨を分析するために必要不可欠な現生動物の骨格標本を精力的に収集し、『動物考古学の手引き』（奈良文化財研究所）や『動物考古学』（京都大学学術出版会）において、現生動物骨格図譜を公開してきました。しかし、実際に国内外の調査へ赴く際に図譜を利用してみると、複雑な形の骨格を平面の実測図で表すには限界があるため、見たい角度で表現されていないことが多く、現地で歯がゆい思いをすることが何度もありました。また、大量の骨格標本や図譜を持ち歩いて調査することが困難であるといった課題も浮かび上がってきました。

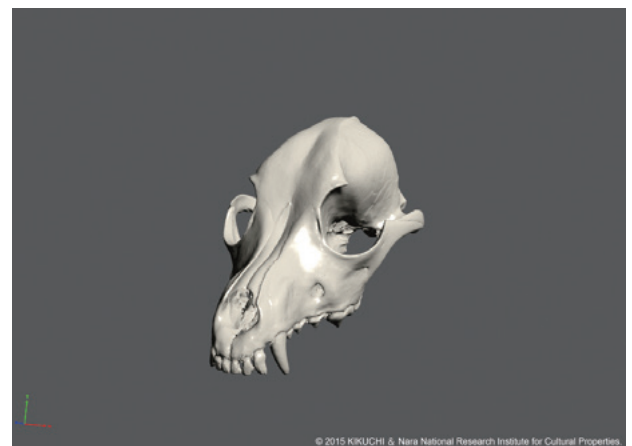
いっぽうで、近年目覚ましく進歩した三次元計測技術が様々な分野の研究に採り入れられており、松井前センター長も早くからこの技術の動物考古学への応用を模索していました。そうしたなか、本研究室客員研究員である菊地大樹が骨格標本の三次元計測をはじめ、データベース化への見通しをたてたことから、2008年より共同研究を開始しました。

残念ながら、松井前センター長は64歳の若さで

今年6月に逝去されましたが、環境考古学研究室はこの事業を継続し、このたび、遺跡から出土することが多い哺乳類（ヒト、イヌ、イノシシ、ニホンジカ、ウシ、ウマ）の主要部位について、三次元計測による立体的な骨格図譜の作成を完了しました。そして、これを奈文研のホームページ上で公開をはじめることになりました。

この立体的な骨格図譜では、あらゆる角度から骨格部位を表示でき、骨の形態の特徴をこれまで以上に容易に把握できるようになっています。また、このデータベースのファイルは、汎用性のあるPDF形式となっているため、どなたでも簡単にダウンロードして利用できます。そのため、今後は調査現場に大量の骨格標本や図譜を持ち運ぶ負担が軽減されることとなりました。さらに、実際に標本を並べることなく、動物種の部位ごとの形態や性差の比較を提示することができるため、教育現場の教材や博物館解説での補助資料等としても利用していただけます。これを、現生骨格標本を直接利用できない考古学研究者だけでなく、動物学や古生物学の研究者の方々に、広く活用していただくことを期待しています。

本データベース公開にあたり、多くの方々にご協力いただきました。この場をお借りして感謝申し上げます。（埋蔵文化財センター 菊地 大樹）



3D Bone Atlas Database トップページ  
(<http://www.nabunken.go.jp/research/environmental/gaiyo.html>)

立体的な骨格図譜（イヌ頭蓋骨）